

アフリカ開発会議(TICAD)の 開催中に横浜で開かれた 国際色豊かな剣道シンポジウム

取材・撮影／月岡洋光



フランスのエリック・マラシ氏（フランス剣道連盟元会長）の講演

今夏8月20日（水）から22日（金）、横浜で第9回アフリカ開発会議（TICAD9）が開催された。日本政府が主導してきたアフリカの開発をテーマとするこの国際会議は1993年に初めて開催され、以来、数年に一度ずつ開かれながら今回が9回目となる。

開催地は横浜。アフリカから49カ国の代表が来日し、ホストシティである横浜の各所で、経済のこと、社会制度のこと、平和・人道・安全保障のことなど、さまざまなテーマのもとにシンポジウムやセミナーが行なわれていった。

アフリカの成長をあと押しする官民一体の取り組みの場において、その一角では剣道に関するシンポジウムも開催された。場所は横浜のホテルニューグラインド。ホスト役を務めたのは、長く国際的な活動に取り組んできた「株式会社 日本武道宮崎」である。剣道具製造業を営み、かねてから世界剣道選手権大会の場等で出店しているほかフランスを拠点に剣道具の販売網を広げ、ヨーロッパ各所で開かれる大会スポンサーや剣道具修理等、サポートにも尽力。武道ツーリズムのキーパーソンとしての活躍もある。今回、顧問の多田

竜三氏がサポートしたのは、アフリカのチュニジア共和国における剣道の普及だった。

チュニジアはアフリカ北部に位置し、地中海の島国マルタとも近い。海を隔てたところにはイタリアやフランスがある。シンポジウムでは、チュニジア共和国のサラ・ハンナシ氏（チュニジア日本友好協会会長、元駐日大使）が開催挨拶を述べる。同じくチュニジアのアメッド・ヌイセー氏（チュニジア剣道リーグ会長）が同国の剣道事情について現状報告を行なった。チュニジアでの剣道の振興は、武道精神を子どもたちに伝え、世界平和へとつながるリーダーを育てていきたいという狙いもあるという。今回はチュニジアの剣士たちも多数来日。シンポジウムの翌日には、推し進めてきたティカッドゲーム（剣道の交流大会）を実施。日本を含めた複数の国の剣士がこれに参加した。

シンポジウムでは多田氏とゆかりのある人たちが講師として登壇。午前の講演者としてフランスのエリック・マラシ氏（フランス剣道連盟元会長）、午後の講演者としてイタリアのジジ・リゴリオ氏（イタリア剣道指導者・技術倫理研究者）が招

かれていた。いずれもモニター画面に同時通訳の文字が流され、聴講者にも英語、日本語で内容が伝えられた。

基調講演では、放送大学の魚住孝至特任教授が、海外の剣士にも人気の宮本武蔵を題材にした話を披露。海外の人々も興味深そうに聞き入り、質問も相次いだ。また午後には愛知淑徳大学の矢野裕介教授が『剣道の歴史と文化の探求・技術史の視点の踏まえて』と題して講演。貴重な資料を紐解いた剣道の技の成り立ちにまで切り込んだ内容に日本人聴講者も興味を示した。



講演者・聴講者全員での記念撮影